

「西アジア遊牧民の染織」展の中から、一部の作品と見どころをご紹介します。

絨毯

起毛（パイル）のある織物で、主に敷物、ときには寝具としても使用されました。イラン各地の山野で部族ごとの遊牧生活をおくる人々が、自分たちの生活のために織った絨毯を中心に、文様や色むらなど、遊牧民ならではの味わいが感じられる作品を展示します。

Photo. 01



西イラン
カシュガイ・ルリ族
1920 年頃
羊毛・山羊毛
215cm×140cm

カシュガイ系ルリ族は、ペルシャ（イラン）ではもっとも古い遊牧民として知られ、自由で明るく独創的な絨毯を多く産出しました。この絨毯のピンク色は、茜かザクロ皮で染められていて、大変めずらしいものです。

Photo. 02



南イラン
アラブ族（ハムセ連合）
1900 年頃
羊毛
228cm×172cm

遊牧民の象徴ともいえる絨毯です。移動生活の中では、家畜に積むことのできる織り機（水平機）の巾は肩幅くらいに制約されるため、肩幅くらいに仕上がった二枚の織物を最後に合体し、一枚にしています。

Photo. 03



西イラン
カシュガイ・ルリ族
1930 年頃
羊毛・山羊毛
238cm×155cm

遊牧民の織物に見られる色むらは、移動しながら織る中で、途中で色糸が変わったためとも、同じ部族の別のグループから近い色を調達したためともいわれます。経年により色合いは微妙に変化しますが、そのことがまた、天然染料ならではの絶妙な味わいを生み出します。それがこの作品にはよく現れています。

Photo. 04



西イラン
ルリ族
1880 年頃
羊毛
182cm×110cm

ルリ族の古い絨毯には、織り手の創作ではなく、古来から伝承された部族文様が織り込まれているものが多くあります。遊牧エリアの奥地では彩色も少なめで、これはその代表的な絨毯です。自家用のサイズで、丁寧に織られています。

キリム（平織物）

キリムとは、トルコ語で毛足の無い平織物のことをいいます。敷物のほかに、室内の間仕切り、覆い布としても使われました。展示では、遊牧民ならではの天然染料の色合いや、独特の意匠を味わえる作品をご紹介します。

Photo. 05



南イラン
カシュガイ族（ファース）
1940 年頃
羊毛

遊牧民キリムの代表作といえるもの。中央の三つの大きなメダリオンや、ボーダーの意匠など、全て彼らが誇りにしている、古来からの伝承文様で埋めつくされています。

Photo. 06



北西イラン
シャーサバン族
1920 年頃
羊毛・木綿
238cm×127cm

ベルシャ（イラン）北部に遊牧したシャーサバン族の古いキリム。シャーサバン族は現在、ほぼ遊牧を終えた定住部族となっていますが、秀でたキリムや袋物を作ることで知られています。

塩袋（ナマクダン）

イランではナマクダンとよばれる、塩を入れておくための専用の袋で、家畜が頭を入れないように、開口部を狭くした凸形をしています。持ち主がすぐわかるよう、特徴的な文様が織り込まれ、ふさ飾りのついた愛らしい姿は見るだけでも楽しめるものです。当館では、塩による家畜群のコントロールという重要な役割を担った生活用具としても注目しています。

Photo. 07



東イラン（ザボール）
バルーチ族
1920 年頃
羊毛
32cm×21cm

この塩袋は小ぶりで、珍しいものです。作られてから 100 年の歳月を経てもそのままの姿で残されており、ふさも整っています。大切に伝承されてきたことが窺えます。

Photo. 08



北東イラン
バルーチ・トルクメン族
1930 年頃
羊毛
54cm×33cm

かつて、イラン東部のアフガニスタンやパキスタンと隣接する広大なシスタン・バルチスタン地方に遊牧したバルーチ・トルクメン族。この部族の塩袋の良品はめずらしく、騎馬民族であった部族の昔日の姿が偲ばれる作品です。